

## 戦後フランス語教育の変遷 : 1940-60年代のコレージュ教科書の事例から

飯田, 伸二  
鹿児島国際大学大学院国際文化研究科 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1495137>

---

出版情報 : Stella. 33, pp.29-36, 2014-12-24. 九州大学フランス語フランス文学研究会  
バージョン :  
権利関係 :

# 戦後フランス語教育の変遷<sup>\*)</sup>

—— 1940-60年代のコレージュ教科書の事例から ——

飯 田 伸 二

## 問題意識、調査の進捗状況

第2次大戦後、フランスでは初等教育修了後の教育が急速に普及した。特に庶民階級と中流下層において、子供を中等教育に進学させたり、小学校修了後も小学校やコレージュ併設の補習クラス (cours complémentaires) で勉学を続けさせたりする動きが顕著になる。このように小学校卒業後の教育が一般化するなか、前期中等教育でフランス語はいかにして教えられたのだろうか<sup>1)</sup>。また今日の教育とのどのような相違によって当時のフランス語教育は特徴づけられるのか。これらの問いに答える研究の一環として筆者はまず考察対象を、ジャン・ゼイの下でカリキュラム改革が実施された1938年からルネ・アビにより統一コレージュが施行された1977年までの期間の教科書に特化し、それらに採り入れられた文学テキストとその関連設問についての網羅的な調査に着手した。中等教育における文学遺産の形成・継承という問題意識に立ち、いずれは調査対象を前期中等教育だけでなく後期中等教育にまで広げる予定である。ただし調査は2014年夏に開始されたばかりということもあり、本稿ではコーパスを1940-60年代にボルダス、コラン、アシェト、ナタンの各出版社から刊行されたコレージュ第1学年用の教科書に限定せざるをえない。

## 教育内容・方法の安定

初等教育修了後の教育に対する需要が著しく増加したにもかかわらず、第4共和制下では制度上の対応・整備は進まなかった——その実態や要因についてはすでに多くの研究がある<sup>2)</sup>。他方ド・ゴールは、中・高等教育の裾野を広げて国際競争力を高めることこそ、フランスが戦後の国際社会で地位を保持するために避けて通れない課題であると認識していた<sup>3)</sup>。じじつ彼は第5共和制の

初代大統領に就任して数カ月後の1959年1月、国民教育相ベルトワンを通じて大規模な教育改革に着手する。いわゆるベルトワン改革である。これにより義務教育年齢が14歳から16歳に引き上げられた<sup>4)</sup>。これは、たとえ小学校で1度留年したとしても、大都市郊外や地方小都市を中心に小学校卒業後の生徒を受け入れていた小学補習クラスの修了はもちろん、前期中等教育の修了までが事実上義務化されたことを意味する<sup>5)</sup>。各地では義務教育年齢の引き上げに対応すべく多数のコレージュが新設された。

こうした制度改革とそれに伴う急速なインフラ整備とは対照的に、40～60年代を通じてフランス語の教育内容と方法にはほとんど変化が見られなかった。カリキュラムは定期的に改定されたものの、コレージュ第1学年の学習内容については枠組みの変更はまったく行われていない。たとえば、1938年から60年代までに施行されたコレージュ第1学年のカリキュラムが指定する学習すべき作家リストを一覧表にまとめると以下のようになる<sup>6)</sup>——

	1938	1941.01	1941.12	1944	1947	1963
中世	○	○	○	○	○	○
17世紀から今日に至る散文・韻文の抜粋	○	○	○	○	○	○
フェヌロン『テレマックの冒険』	○	○	○	○	○	×
モリエール	○	○	○	○	○	○
ラ・フォンテーヌ	○	○	○	○	○	○
世界の発見・探検	○	○	○	○	○	○
古代作家	○	○	○	○	○	○
外国文学	○	○	○	○	○	○

コレージュ第2学年以降は、教授内容が第1学年ほどは一定していない。だが表からは、前期中等教育の初年次では少なくとも30年に渡りほぼ同一の教授内容が維持され続けた事実が読みとれる。目ぼしい変化といえば、1963年度のカリキュラムからフェヌロンの『テレマックの冒険』が削除されたことぐらいである。

また、この期間の教授方法も基本的な枠組みは1938年度の指導要領に準拠している。1974年に統一コレージュと共に施行されたカリキュラムにあわせて新たな指導要領が発表されるまでの間、1938年の指導方針を補足することはあつ

でも、それを刷新するよう行政から声明や公文書が発せられることは皆無だった<sup>7)</sup>。もちろん年々変化する教育現場から改革へのムーブメントが起こらなかったわけではない。しかしながら教育内容・方法の改革を目指したフランス語、フランス文学担当教員の活動によって、初等・中等・高等教育の垣根を越えた全国的な団体「全国フランス語教員協会 (Association Française des Enseignants de Français)」が組織され、活動を開始するには、60年代後半を待たねばならなかったのである<sup>8)</sup>。

### 教科書の構成

下の表は、カリキュラムにおける作家リストの項目と現在までに筆者が調査した主な教科書の目次構成との対応を示したものである。各マスの上段は項目に費やされた頁数、下段は教科書の総ページ数に占める割合を示す<sup>9)</sup> ——

	中世	17~20世紀 の抜粋	テレマック	モリエール	ラ・フォン テーヌ	世界の発 見・探検	古代	外国文学	総頁
Bordas 1954	14 3.6%	237 61.7%	12 3.4%	20 5.2%	19 4.9%	21 5.5%	17 4.4%	14 3.6%	384
Bordas 1962	14 3.1%	276 61.6%	12 2.7%	29 6.5%	31 6.9%	21 4.7%	28 6.3%	14 3.1%	448
Bordas 1967	15 3.6%	244 58.7%	0	26 6.3%	32 7.7%	26 6.3%	27 6.5%	24 5.8%	416
Colin 1943, 1960	27 6.8%	113 28.6%	36 9.1%	41 10.4%	44 11.1%	17 4.3%	70 17.7%	39 9.9%	395
Hachette 1940, 1940, 1960, 1962	36 9.8%	131 35.8%	42 11.5%	40 10.0%	6 1.6%	54 14.8%	25 6.8%	21 5.7%	366
Hachette 1962	5 1.1%	335 75.8%	2 0.5%	19 4.3%	15 3.4%	8 1.6%	6 1.4%	13 2.9%	442
Hachette 1968	30 11.8%	107 42%	0	25 9.8%	8 3.1%	49 19.2%	19 7.5%	17 6.7%	255
Hachette 1969	25 6.8%	139 43.5%	0	18 4.9%	14 3.8%	32 8.7%	38 10.4%	54 14.7%	367
Nathan 1944, 1947, 1947, 1949, 1959	20 6.8%	86 29.1%	31 10.5%	36 14.2%	27 9.5%	34 11.5%	19 6.4%	36 12.2%	296

当然ではあるが、これまでに調査できた教科書の目次構成は、カリキュラムに示された作家・作品リストにほぼ対応している<sup>10)</sup>。

40-60年代のカリキュラムでは学習すべき作家リストに、「17世紀から今日に至る韻文・散文の抜粋」(以下、「抜粋選」という項目が設けられていた。表が

示すように、抜粋選の占める割合はどの教科書でも最大である。現行の教科書ではカリキュラムの構成要素がほぼ均等に割り振られているのとは大きく異なる。当時の教科書において特に抜粋選が重視された理由は、教科教育上の役割という観点から説明できよう。抜粋選は文法・語彙に関する知識、言語運用能力、言語文化（主に文学）にかかわる教養といった、科目が掲げる主要な学習目的のそれぞれに関与していたのである。もちろんこうした編成方針がカリキュラムにもとづいているのはいうまでもない。カリキュラムは、フランス語分析（*explication française*）と呼ばれる、文法・語彙・綴り字に渡る総合的学習にラ・フォンテーヌの寓話詩と並んで抜粋選を用いるよう定めているのである。また、いずれの教科書でも文章作成力を養う課題は、ほぼ抜粋選のなかでのみ出題されている。

では、抜粋選にはどのようなテキストが選ばれていたのだろうか。本稿では詳述する余裕はないので、ここでは2点指摘するだけにとどめよう。まず韻文 / 散文の比率にはある程度の均衡が見てとれる。これほど多数の韻文テキストが収録されることは、韻文が詩とラ・フォンテーヌにかんする単元に限られる近年の教科書には見られない。こういった韻文 / 散文の量的バランスとは対照的に、時代毎に区分した抜粋テキストの統計には大きな偏りが確認できる。カリキュラムが「17世紀から今日」という時代枠を設定しているにもかかわらず、実際には17・18世紀からの抜粋は僅少であり、大半が19・20世紀から採られているのだ。つまりテキストが表象する世界、時代背景、文体などにおいて、比較的生徒が理解しやすいものが優先的に選ばれているのである。

改めて強調するまでもなく、フランス語の教科書は3つのカテゴリーに属す要素から成るハイブリッドな構造体といえる<sup>11)</sup>。通常、教科書で最も重要なスペースを占めるのは、本文をなすテキストにほかならない。本文には理解を助けるディスクール——テキストおよび作者についての説明・紹介文・註などが付随する。さらにはテキストの理解を確認するためのディスクール、すなわち文章の理解・解釈を問う問題や文法的知識・語彙にかんする設問、あるいは作文の文章力を養うための課題などが配置される。

じじつ、抜粋選に登場するそれぞれのテキストには、語彙・文法・内容理解にかんする相当数の設問が付されており、多くのばあい、これら一連の設問は作文の課題で締めくくられている。後者においては、使用する構文や語彙、手

本とすべき言い回し、文章・段落の展開の仕方、作文に盛り込むべき内容やその構成までも指示されるのが一般的である。つまり作文課題は、抜粋の考察を通じて学んだ文章作成技術を、あくまでも生徒自らが身につけるための手段として設定されており、その意味では修辭レトリカ的な課題だといえよう<sup>12)</sup>。

他方、抜粋選には、新学期や宿題、学校での日常、夏休みやクリスマス、あるいは両親・兄弟姉妹との関係といった、10代前半の生徒にとって身近な話題を扱ったテキストが多数盛り込まれている。必然的に作文課題にも関連したテーマが選ばれる傾向があった。その結果、当時の作文課題は、現行の第1学年用教科書に見られる作文課題と比較しても、生徒の生活世界と関連深いものが多いのである。

### 今後の調査に向けて

現在は調査の途中であり、早計に結論づけるのは慎まねばならない。これまでの調査にもとづき暫定的に次の点を確認しておこう。

40-60年代の前期中等教育におけるフランス語の教授内容に大きな変化は見られない。カリキュラムからは抜粋選のテキストが17世紀を中心に選ばれたことが予想された。しかし実際に教科書の大部分を占めていたのは、19・20世紀の作家と作品であった。また、これらの抜粋に付された作文課題も、教育を受ける生徒の生活世界と近い題材が採用されていた。つまり生徒がフランス語で読む文章も書く作文も、カリキュラムから予測された以上に彼らにとって親しみやすいものが多かったのである。

以上の調査結果は、20世紀半ばの前期中等教育におけるフランス語教育のあり方を再検討するように促さずにはいない。19世紀から20世紀初頭にかけての中等教育におけるフランス語は、人文学的教養を養成するため古代語学習を補完する機能を果たしてきた<sup>13)</sup>。それゆえ、20世紀に入っても統一コレージュ実施以前は、人文学的教養の涵養こそがフランス語学習に期待される主要な役割だと考える傾向が強かった。しかしながら19世紀後半以降の高等小学校および補習クラスの全国的な展開、さらには初等教育と中等教育の接近を図ったジャン・ゼイによる改革(1938年)により、社会が国語教育に求める機能が変容した可能性、すなわち従来以上に実用的な言語運用能力の育成が求められるようになった可能性は否定できないのである。20世紀の前期中等教育における

フランス語教育の実態を解明するためには、教科内容を小学校修了後の教育の普及との関連において考察することが不可欠な所以である。

## 註

- \*) 本稿は平成 26 年度科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号 26381243, 研究代表者：飯田伸二, 研究課題「フランス中等教育における文学教育：文学遺産の形成・継承・課題」）の研究成果の一部である。また本稿は、2014 年 11 月 29 日に大阪大学吹田キャンパスで行われた日仏教育学会 2014 年度研究大会発表予稿集のテキストに大幅な加筆を施したものである。
- 1) この問題を考える導入としては以下の論考が貴重である—— Clémence CARDON-QUINT, «L'enseignement du français à l'épreuve de la démocratisation (1959-2001)», *Paedagogica Historica*, vol. 46, n<sup>os</sup> 1-2, February-April 2010, pp. 133-148.
  - 2) 以下の専門書・論文は、当時の社会・政治状況を的確に把握しながら教育改革の流れを詳細に分析している—— Claude LELIÈVRE, *Histoire des institutions scolaires*, Paris: Nathan, coll. «Repères pédagogiques», 1995, 238 pp.; Antoine PROST, *Histoire générale de l'enseignement et de l'éducation en France, t. IV: l'école et la famille dans une société en mutation (depuis 1930)*, Paris: Perrin, coll. «Tempus», 2004, 808 pp.; André D. ROBERT, «La Quatrième République et les questions de l'égalité et de la justice dans l'enseignement du second degré: le changement sans la réforme», *Revue française de pédagogie*, n<sup>o</sup> 59, avril-juin 2007, pp. 81-92.
  - 3) PROST, *op. cit.*, pp. 276-295.
  - 4) ベルトワン改革の全体像については以下の資料集を参照のこと—— Lydie HEURDIER et Antoine PROST, *Les Politiques de l'éducation en France*, Paris: Documentation française, coll. «Doc' en poche, regard d'expert», 2014, 553 pp.
  - 5) 小学校の補習クラスの歴史的役割、および他の教育機関との関係については以下の研究を参照—— Jean-Pierre BRIAND et Bernard CHAPOULIE, *Les Collèges du peuple: l'enseignement primaire supérieur et le développement de la scolarisation prolongée sous la Troisième République*, Rennes: Presses universitaires de Rennes, coll. «Histoire», 2011, 544 pp.
  - 6) 表は以下の資料を元に作成した—— André CHERVEL, *Les Auteurs français, latins et grecs au programme de l'enseignement secondaire de 1800 à nos jours*, Paris: Institut national de recherche pédagogique, Publications de la Sorbonne, 1986, 388 pp.
  - 7) André MAREUIL, «Les programmes de français dans l'enseignement du second

- degré depuis un siècle», *Revue française de pédagogie*, vol. 7. 1969, pp. 31-45.
- 8) 全国フランス語教員協会発足時のマニフェスト, 「シャルボニエールのマニフェスト」(1969年9月)は現在, 「文芸を救う」協会が運営するサイトで参照可能である (<http://www.sauv.net/charbonnieres.php>)。
- 9) 表には出版社と出版年を記した。今回調査した各社の教科書は以下のとおり。
- ボルダス社—— Jean FOURNIER et Maurice BASTIDE, *Français : classe de 6<sup>e</sup>. 1*, Paris : Bordas, coll. «Lagarde et Michard», 1954, 384 pp. ; id., *Français : classe de 6<sup>e</sup>. 1, nouvelle présentation*, Paris : Bordas, coll. «Lagarde et Michard», 1962, 448 pp. ; id., *Français : en classe de 6<sup>e</sup> nouveau programme classique, moderne, technique*, Paris : Bordas, coll. «Lagarde et Michard», 1968, 416 pp.
- アルマン・コラン社—— Gaston CAYROU, Henry BARON et Fernand ÉMERIAU, *Le Français en 6<sup>e</sup> : sixième moderne*, Paris : Armand Colin, coll. «Méthode moderne d'humanités françaises», 1943, IV-395 pp. ; id., *Le Français en 6<sup>e</sup> : sixième moderne*, Paris : Armand Colin, coll. «Méthode moderne d'humanités françaises», 1960, IV-395 pp.
- アシェット社—— J.-René CHEVAILLIER, Pierre AUDIAT et Édouard AUMEUNIER, *Les Nouveaux textes français : enseignement du second degré classe de sixième et année préparatoire des E.P.S et des C.C. ouvrage conforme aux programmes officiels*, Paris : Hachette, coll. «Les humanités françaises», 1940, VI-366 pp. ; id., *Les Nouveaux textes français : classe de sixième ouvrage conforme aux programmes officiels*, Paris : Hachette, coll. «Les humanités françaises», 1940, VI-364 pp. ; id., *Les Nouveaux textes français : classe de sixième*, Paris : Hachette, coll. «Les humanités françaises», 1960, VI-364 pp. ; id., *Les Nouveaux textes français : classe de sixième*, Paris : Hachette, coll. «Les humanités françaises», 1962, VIII-340 pp. ; Jean BEAUGRAND et Marcel COURAULT, *Le Français par les textes*, Paris : Hachette, coll. «Classiques Hachette», 1962, 441 pp. ; J.-René CHEVAILLIER, Pierre AUDIAT et Édouard AUMEUNIER, *Les Nouveaux textes français : classe de sixième*, Paris : Hachette, coll. «Ma bibliothèque classique», 1968, 255 pp. ; Marie-Louise ACHARD, José LUPIN et B. QUILLET, *À livres ouverts 6<sup>e</sup>*, Paris : Hachette, 1969, 366 pp.
- ナタン社—— Aimé SOUCHÉ, Maurice DAVID et Jacques LAMAISON, *Les Auteurs du nouveau programme : explications françaises, lectures suivies et dirigées classe de sixième des lycées et collèges programmes nouveaux*, Paris : Nathan, 1944, 296 pp. ; id., *Les Auteurs du nouveau programme : explications françaises, lectures suivies et dirigées classe de sixième des lycées et collèges, première année des cours complémentaires programmes nouveaux*, Paris : Nathan, 1947, 296 pp. ; id., *Les Auteurs du nouveau programme : explications françaises, lectures suivies et dirigées classe de sixième des lycées et collèges programmes nouveaux*, Paris :

- Nathan, 1947, 296 pp. ; id., *Les Auteurs du nouveau programme : explications françaises, lectures suivies et dirigées classe de sixième des lycées et collèges et des cours complémentaires programmes nouveaux*, Paris : Nathan, 1949, 296 pp. ; id., *Les Auteurs du nouveau programme : explications françaises, lectures suivies et dirigées, classe de sixième des lycées et collèges et des cours complémentaires (collèges d'enseignement général), nouveaux programmes*, Paris : Nathan, 1959, 296 pp.
- 10) 教科書の目次構成はカリキュラムが指定する作家・作品に従うのが通例となっている。ただし今回調査した教科書の一部 (Hachette : 1940, 1962, 1968) では、ラ・フォンテーヌの寓話が個別の章を構成せず、「17世紀から今日に至る韻文・散文の抜粋」(以下「抜粋選」)に組み入れられる事例が確認できた。またモリエールにかんしては、個別の章を設けながらも、さらに抜粋選でも取り上げている教科書があった (Hachette : 1962)。なお、表の作成にあたっては、抜粋選の章で取り上げられているラ・フォンテーヌ、モリエールのテキストは抜粋選の一部はなく、それぞれの作家に関わる章のページとしてカウントした。
- 11) Pierre KUENTZ, «L'envers du texte», *Littérature*, n° 7, octobre 1972, pp. 3-26.
- 12) じじつ当時の教科書の作文課題は「～を手本に (sur le modèle de...)」「～を模倣して (en essayant d'imiter...)」「～から発想を得ながら (en s'inspirant...)」「～を手助けにして (à l'aide de...)」といった表現で溢れている。
- 13) 代表的な研究としては以下がある—— Clément FALUCCI, *L'Humanisme dans l'enseignement secondaire en France au XIX<sup>e</sup> siècle*, Paris / Toulouse : Henri Didier / Édouard Privat, 1939, 666 pp.